

FontFont

漢字・かな編

青い鳥こどもクリニック
引田 満



今回はフォント（書体）の話です。一般的には長文の場合、明朝体を使うことが多いと思いますが、横の線が細いため、誌面全体が黒々とした印象にならず、読む際にも目の負担が少ないのが選ばれる理由かと思えます。windows95の時代より長きにわたり標準フォントとして採用されてきたwordのMS明朝ですが、2016年からはデザインを一新した游明朝にその座を譲りました。この文章にも使用しています。一方のゴシック体も曲線を用いた細字の書体であれば長文でもかなり読みやすく、堅苦しくないモダンな印象になるので

個人的にはよく使います。この会報誌の目次はいつもヒラギノ丸ゴシックを使用しています。短文や見出しなどはその内容（ニュアンスというか）に合わせて大胆にフォントを選択すると、読み手を惹きつけるので、とても効果的です。下記に手書き風フォントも含め、色々な書体を挙げてみましたが、それぞれに表情豊かで印象が大きく変わります。最近はユニークなデザインフォントなども無料でダウンロード、インストールできるサイトがたくさんありますので、たまには目先を変えてフォントを選択してみるのもいいかもしれまん。

国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。	ヒラギノ丸ゴ
国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。	游明朝
国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。	Helvetica
国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。	游教科書
国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。	はせミン
国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。	夕カハンド
国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。	はるひ学園
国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。	プリニィー桃
国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。	古印体
国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。	あずきフォント
国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。	すずむし
国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。	ヒラギノ行書